

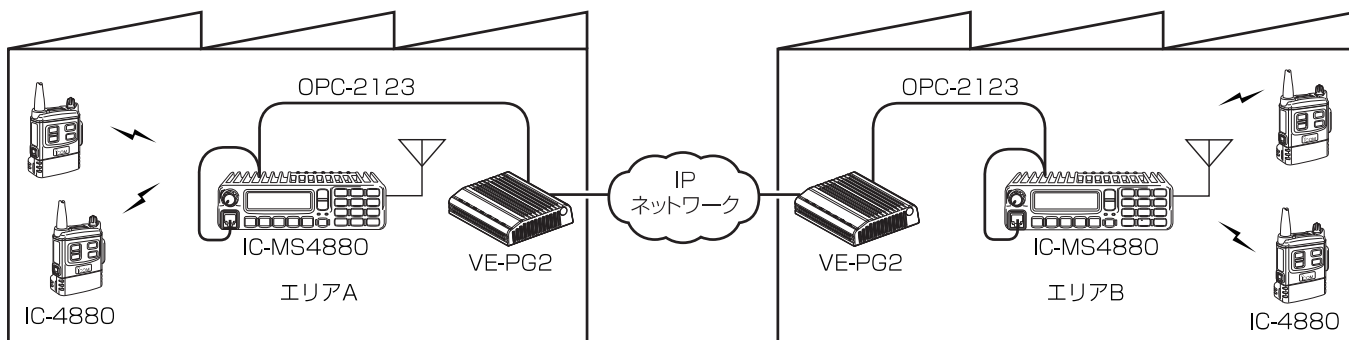
VE-PG2/IC-MS4880設定ガイド (OPC-2123をご使用ください。)

本書をお読みいただく前に、VE-PG2の「ご注意と保守について」、IC-MS4880取扱説明書の「安全上のご注意」を必ずお読みください。

本書では、VE-PG2とIC-MS4880との接続方法、運用上の注意事項、IC-MS-4880、VE-PG2の設定、各種構成例について説明しています。

無線機の設定にはお使いになる無線機の取扱説明書を、VE-PG2の設定にはVE-PG2取扱説明書(PDF版)をご用意ください。

- VE-PG2とOPC-2123を接続することで、下図のように、IC-MS4880をIPネットワークに接続して使用できます。
- IPネットワークを使用することにより、IC-MS4880の通話エリアを拡大できます。



もくじ

1. 注意事項	2
■ブリッジモードでの注意事項	2
■コンバーターモードでの注意事項	2
■IC-MS4880運用時の監視ツールについて	2
■IC-MS4880のスピーカー出力について	2
■IC-MS4880と別売品の併用について	2
2. 接続と設定	3
■VE-PG2との接続	3
■VE-PG2の設定	4
無線機制御設定	4
VOX制御設定	4
自動切断タイマー設定	4
■IC-MS4880の設定	4
3. ブリッジモードの構成例	5
4. コンバーターモードの構成例	6
5. 困ったときは	7

1. 注意事項

■ブリッジモードでの注意事項

- ◎シンプレックス無線機(IC-4810、IC-DPR1など)と混在して使用できません。
- ◎ユニキャストモードで運用してください。(マルチキャストモードでは運用できません。)
- ◎本書の「2.接続と設置」にしたがって、VE-PG2のPTT制御(VOX)が動作しないように設定してください。
- ◎IC-MS4880を使用した通信には、IC-MS4880とVE-PG2が2組必要になります。
- ◎それぞれのVE-PG2にIC-MS4880が接続されている場合にだけ通話できます。
- ◎IC-MS4880を使用した通信では、VE-PG2は送受信に関する制御をしないため、[TRX1]ランプ、[TRX2]ランプ、[TRX3]ランプは、無線機が送信中でも点灯(赤色)しません。

■コンバーターモードでの注意事項

- ◎シンプレックス無線機(IC-4810、IC-DPR1など)と混在して使用できません。
- ◎本書の「2.接続と設置」にしたがって、VE-PG2のPTT制御(VOX)が動作しないように設定してください。
- ◎発信はIP電話側しかできません。(無線機側からIP電話機を呼び出せません。)
- ◎IC-MS4880を使用した通信では、VE-PG2は送受信に関する制御をしないため、[TRX1]ランプ、[TRX2]ランプ、[TRX3]ランプは、無線機が送信中でも点灯(赤色)しません。

■IC-MS4880運用時の監視ツールについて

VE-PG2に付属の監視ツールにおける無線機ポートの送中表示やロック機能は、使用できません。

■IC-MS4880のスピーカー出力について

IC-MS4880のスピーカーから聞こえるモニター音は、そのIC-MS4880に無線接続しているIC-4880(子機)の通話音だけです。VE-PG2を介した通話音はモニターできません。

■IC-MS4880と別売品の併用について

本製品でVE-PG2とIC-MS4880を接続するとき、拡張用ポートおよびマイクコネクタを使用しますので、これらを使用するIC-MS4880の別売品は併用できません。

2. 接続と設定

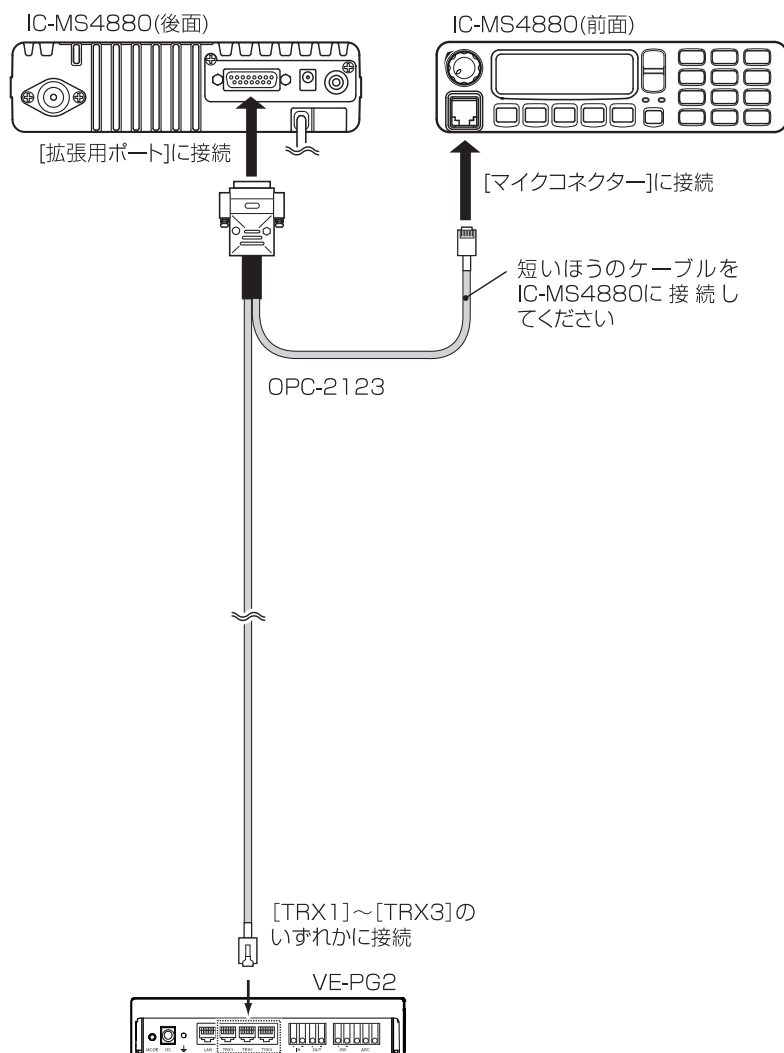
■ VE-PG2との接続

◎IC-MS4880、VE-PG2の電源が入っているときは、電源を切ってください。

◎IC-MS4880のマイクロホンはずしてしてください。

◎IC-MS4880とVE-PG2を下図のように接続してください。

◎IC-MS4880はスレーブ機を増設できません。



2. 接続と設定(つづき)

■ VE-PG2の設定

VE-PG2の「無線機制御設定」、「VOX制御設定」、「自動切断タイマー設定」を次のように設定してください。

なお、各項目の設定端子、「無線機1 (TRX1)～無線機3 (TRX3)」は、IC-MS4880を接続する端子を選択してください。

※お使いの環境によっては、下記設定値を微調整する必要があります。

無線機制御設定

「接続設定」→「TRX/EXT—無線機1 (TRX1)～無線機3 (TRX3)」

無線機制御設定

無線機の接続検出を使用: ☐ しない ☒ する

受信優先を使用: ☐ しない ☒ する

送信音量: dB

受信音量: dB

「受信優先を使用」:「する」を選択

「送信音量」:「-12dB」に設定

「受信音量」:「-6dB」に設定

VOX制御設定

「接続設定」→「TRX/EXT—無線機1 (TRX1)～無線機3 (TRX3)」

VOX制御設定

PTT制御用VOX ※アタックタイム、リリースタイム、音声遅延の設定値は5ミリ秒

アタックタイム: ミリ秒

リリースタイム: ミリ秒

音声遅延: ミリ秒

音声スレッシュ: %

「音声スレッシュ」:「100%」に設定

登録 取消 登録して再起動

〈登録〉をクリック

自動切断タイマー設定

「接続設定」→「VoIP詳細—無線機1 (TRX1)～無線機3 (TRX3)」

コンバーターモードで運用する場合だけ設定してください。

自動切断タイマー設定

SIPサーバー接続

発信呼出停止タイマー: 秒

無通話切断タイマー: 秒

Peer to Peer接続

発信呼出停止タイマー: 秒

無通話切断タイマー: 秒

「無通話切断タイマー」:「0秒」に設定

「無通話切断タイマー」:「0秒」に設定

登録 取消 登録して再起動

〈登録〉をクリック

■ IC-MS4880の設定

IC-MS4880の取扱説明書を参考に、下表のように設定してください。

※お使いの環境によっては、設定値を微調整する必要があります。

通話チャンネル(M-ch番号)	1～10の任意
音量	任意
トーンスケルチ	トーンスケルチを使用
マイク感度	5(初期設定値)
拡張接続(有線拡張機能)	OFF(初期設定値)

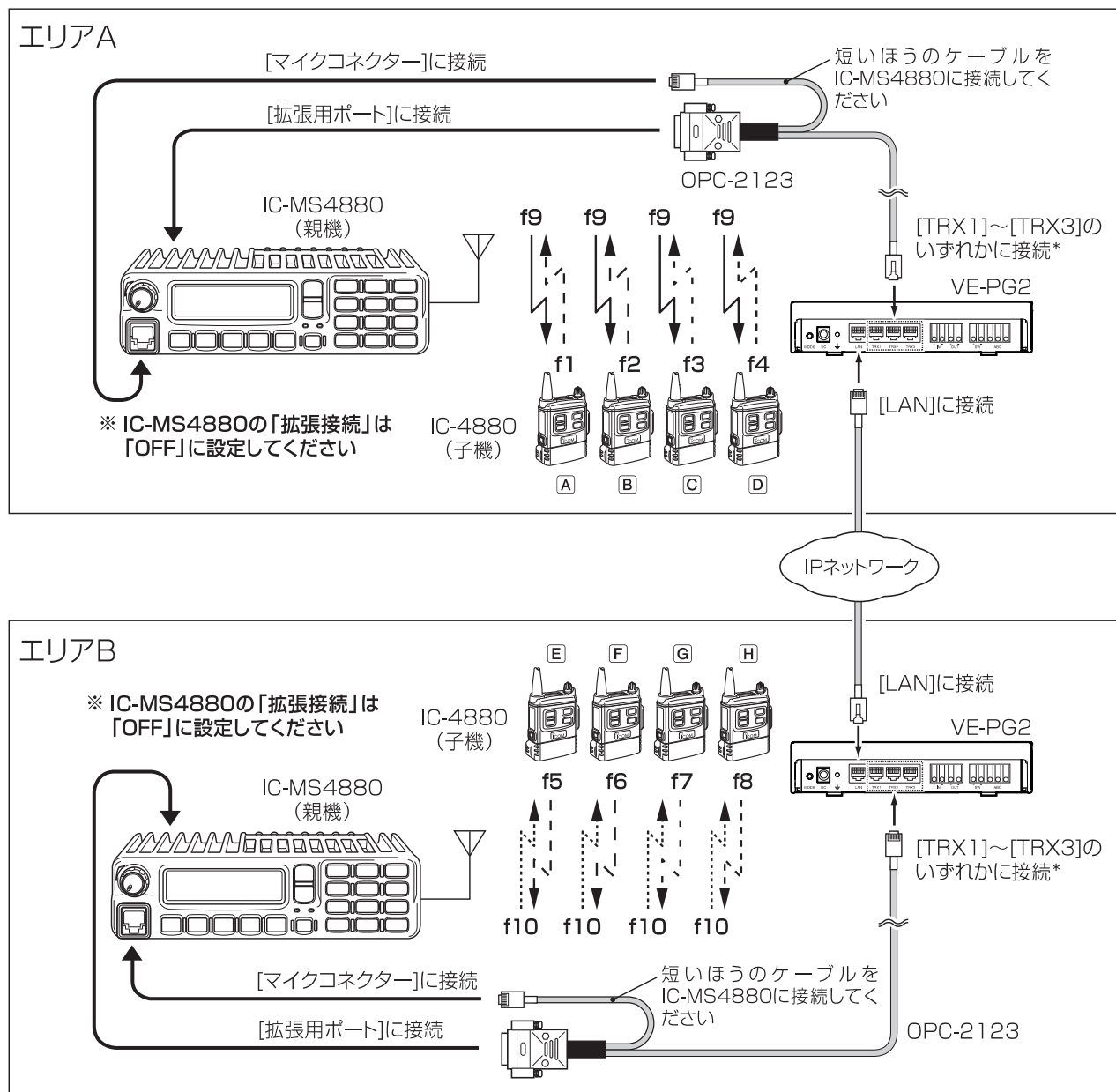
※予期しない外来雑音やほかの無線機の信号で誤動作しないように、IC-4880(子機)も同じトーンスケルチを設定してください。

※2台以上のIC-MS4880をVE-PG2に接続する場合、無線機の相互干渉を低減させるため、IC-MS4880取扱説明書の「周波数番号一覧表」をご覧ください、送受信チャンネルを5チャンネル以上あけて設定し、アンテナを3m以上はなして設置することをおすすめします。

3. ブリッジモードの構成例

下記は、「エリアA」、「エリアB」のVE-PG2に1台ずつIC-MS4880を接続した場合の構成例です。

- ◎[エリアA]、[エリアB]のそれぞれで4台ずつ無線機を利用できます。
- ◎[エリアA]ー[エリアB]間では、最大8人による双方向同時通話ができます。
- ◎VE-PG2はユニキャストモードで運用してください。
- ◎IC-MS4880(親機)、IC-4880(子機)の設定は、無線機の取扱説明書をご覧ください。
- ◎f1～f10は、それぞれ異なる周波数番号を設定します。
- ◎IC-MS4880(親機)とIC-4880(子機)に設定された周波数番号とトーン周波数番号が一致したときに通話できます。
- ◎IC-MS4880(親機)でVE-PG2を介した対向する子機の送話音をモニターできません。
- ◎IC-MS4880(親機)からIC-4880(子機)を呼び出しできません。



*それぞれのVE-PG2をブリッジモードに設定して、使用するポート（[TRX1]～[TRX3]のいずれか）同士をユニキャストモードに設定してください。
詳しくは、VE-PG2の取扱説明書をご覧ください。

【ブリッジモードでの運用例】

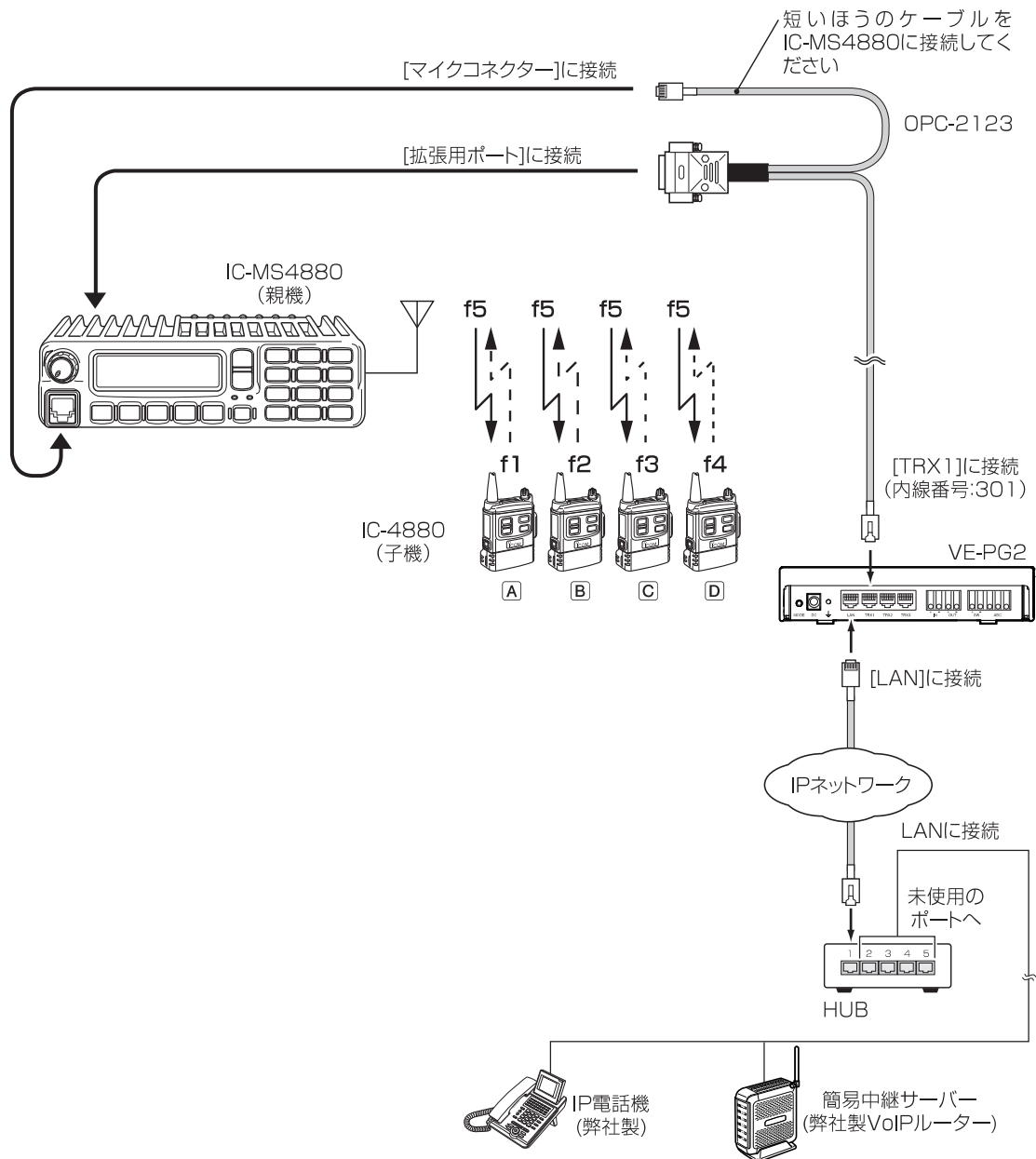
(例:「エリアA」の無線機Aと「エリアB」の無線機Eが通話する場合)

- ① [エリアA]の無線機[A]の【通話】スイッチ、またはマイクロホン(別売品)のマイクスイッチを押して、「ON」にします。
マイクロホンに向かって「こちら××です。〇〇さんどうぞ。」のように発声して、[エリアB]の無線機[E]に呼びかけます。
- ② 無線機[A]から呼びかけられた無線機[E]も、【通話】スイッチ、またはマイクロホン(別売品)のマイクスイッチを押して、「ON」にします。
マイクロホンに向かって「こちら〇〇です。××さんどうぞ。」のように発声すると、電話と同様に同時通話できます。
- ③ 無線機[A]または無線機[E]の【通話】スイッチ、またはマイクロホン(別売品)のマイクスイッチを押して、「OFF」にすると、通話が終了します。

4. コンバーターモードの構成例

下記は、VE-PG2にIC-MS4880を1台接続した場合の構成例です。

- ◎無線機を4台利用できます。
- ◎無線機からIP電話機を呼び出せません。
- ◎電話からの発信者、無線機4台による、最大5人での双方向同時通話ができます。
- ◎IC-MS4880、IC-4880の設定は、無線機の取扱説明書をご覧ください。
- ◎f1～f5は、それぞれ異なる周波数番号を設定します。
- ◎IC-MS4880(親機)とIC-4880(子機)に設定された周波数番号とトーン周波数番号が一致したときに通話できます。
- ◎IC-MS4880(親機)でIP電話機からの送話音をモニターできません。
- ◎IC-MS4880(親機)からIC-4880(子機)を呼び出しできません。
- ◎外線やIPドアホンなどを使用して無線機と通話できません。



【コンバーターモードでの運用例】

(例:IP電話機と無線機Aが通話する場合)

- ① IP電話機から内線301を発信します。
発信成功后、「こちら××です。〇〇さんどうぞ。」のように発声して、無線機Aを呼び出します。
- ② IP電話機から呼び出された無線機Aは、**【通話】**スイッチ、またはマイクロホン(別売品)のマイクスイッチを押して、「ON」にします。
マイクロホンに向かって「こちら〇〇です。××さんどうぞ。」のように発声すると、電話と同様に同時通話できます。
- ③ 通信を切断するときは、IP電話機の受話器を置いてください。
※無線機Aからは通信を切断できません。

5. 困ったときは

下記のような現象は、故障でないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

VE-PG2を介した通話をしたとき、エコーが2重に発生する(自分の声のモニター音とさらに少し遅れて同じ音が返ってくる状態)

〈原因〉 IC-MS4880の「拡張接続」が「Mas」または「Slave」に設定されている。

〈対策〉 IC-MS4880の「拡張接続」を「OFF」(初期設定値)に設定する。